

わたらせがわ じゃま 渡良瀬川にお邪魔します

～ツマグロヒョウモンの足利出現～

動物や植物が生息する場所は、それぞれの成長に適した気候や地形などを条件にして、ある程度の範囲に決まっています。これを、その生き物の分布域といい、温かい所を好む生き物が、北の寒い地方に生息することはありません。しかし、生き物の分布域が明らかに変化しています。

かつて渡良瀬川では見られなかったツマグロヒョウモンという蝶が、平成24年(2012年)に「河川水辺の国勢調査」において初めて確認されました。

ツマグロヒョウモンは、スマイレ類を好み、暖帯から亜熱帯・熱帯に生息します。

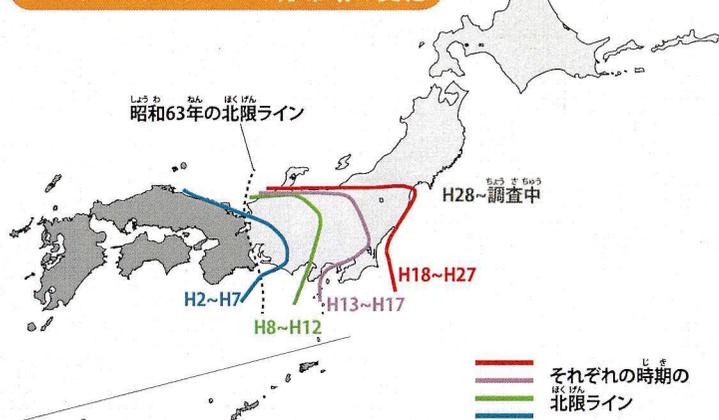
分布図を見てもわかるように、昭和63年

(1988年)では、近畿地方が分布の北限でした。しかし平成13年(2001年)以降、関東地方や東北地方へと分布域が徐々に北上しており、居るはずのなかった渡良瀬川でも発見されているのです。

ツマグロヒョウモン

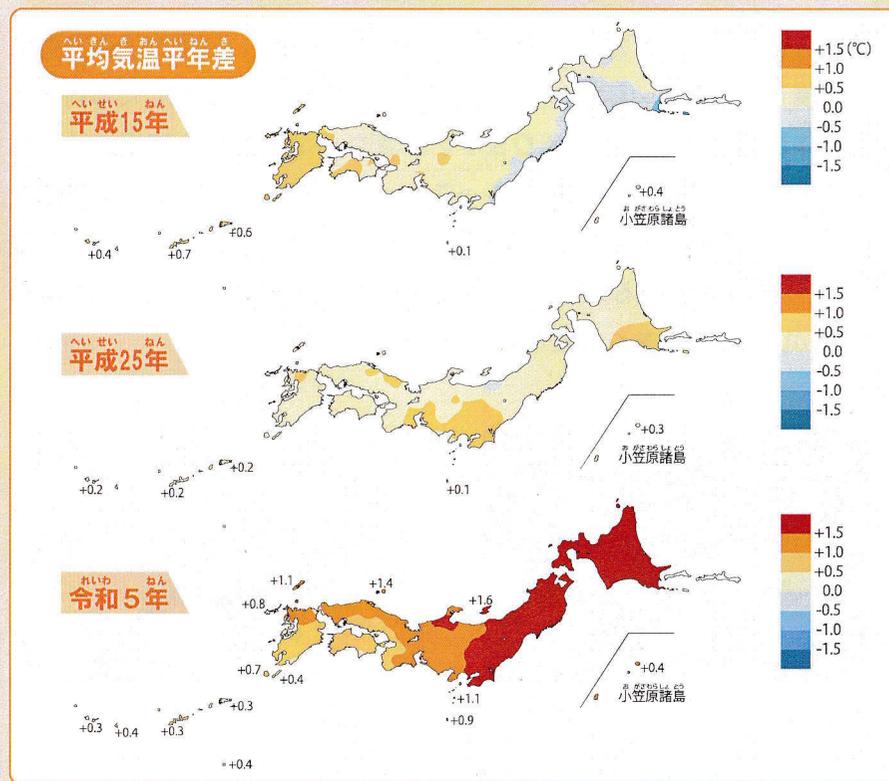


ツマグロヒョウモンの分布域の変化



出典：「第3回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 鳥類」(環境省生物多様性センター) (https://www.birdic.go.jp/reports2/3rd/ao_bird/3_ap_bird.pdf) と国土交通省ウェブサイト (<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001891876.pdf>) を加工して作成したものです

気温の変化を見てみましょう。この図は、平均気温平年差といって、地域ごとの平均気温との差を示す地図です。色が赤みを帯びる程、平年より高いということを表しています。上から平成15年(2003年)、平成25年(2013年)、令和5年(2023年)と、10年ごとに並べています。この20年間で日本の気温が大きく変化したことがわかります。



出典：気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/mw/press/tenko.html>) を加工して作成したものです

このことから、昭和の時代には、近畿地方から南の関東地方より温暖な地域にのみ生息していたツマグロヒョウモンが、気温の上昇に伴い、生息域を北に向けて拡大していると考えられます。近いうちに、北海道でも見つかりそうな勢いです。

緊急事態！生き物たちの北上移動

ツマグロヒョウモンの例から、渡良瀬川でも生き物の分布に変化が起きていることがわかりました。これは、今まで渡良瀬川では見られなかった生き物を、遠くまで探しに行かずとも見られるチャンスかもしれませんが、分布域の変化は、そう喜ばしい話でもありません。

例えば、ヒアリやセアカゴケグモ。これらは外来種で、暖温帯や亜熱帯に生息する種で日本にはいなかった昆虫ですが、海外から運ばれてくる荷物と一緒に日本に入り込むことがあります。本来ならば、日本の気候には適さないのに、冬を越すことが出来なかつたり、繁殖できなかつたりするはずですが、「気候変動」により高温多湿となった日本では、増殖も越冬も可能になり、定着し始めているのです。猛毒を持った昆虫が身近にいるのはあまり気持ちのいいものではありませんね。

ヒアリ



セアカゴケグモ



温かい場所を好む動植物が、北に北に分布域を拡大している一方、山の高いところや北部など、寒い地域を好む生き物たちは、気温が上昇し生育可能な温度に達すれば、生きていくことはできず、絶滅してしまいます

世界の環境保全に取り組むWWFによると、気候変動の影響を受けている絶滅危惧種は、2000年時点では、10種あまりだったのが、2010年で300種近くに増加。2015年で約1,000種に、2020年には4,000種近くになり、2025年5月の時点では7,695種にのぼっています。絶滅のスピードも急激に加速しており、深刻な問題であることがわかります。

渡良瀬川も、これからはツマグロヒョウモンなど暖かな地方の生物が増えるかもしれませんが、低温を好む生き物には、生活しにくい川になりつつあるのです。

出典：WWFジャパン (<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/286.html>)

トピック！

気候変動の影響を受けている絶滅危惧種

動物園などで馴染みの生き物たちも、気候変動による絶滅の危機に瀕しています。例えば、ホッキョクグマは、海に浮かぶ氷の上で狩りをして、エサとなるアザラシを捕らえますが、気温の上昇で北極の海水は減り続けています。氷が薄くなったり小さくなってしまうと、氷上のアザラシを上手く捕まえることができなくなり、餓死してしまうのです。また、ジャイアントパンダも、食べられる物の99%が竹という特殊な動物のため、その竹が温暖化で育ち難くなっている今、生きるための食料を失いつつあります。他にも、産卵場所が29.5℃を超えるとメスが産まれるというアオウミガメの場合は、温暖化が続けば、メスばかりが増えて、子孫を残せなくなってしまうそうです。

気候変動は、地球全体で、深刻な問題となっています。

